

岡山県法人会連合会 会長賞

北歐が世界に誇る税金制度

岡山県立岡山操山中学校 1年

廣尾 和季

世の中の人々は、2014年4月に税率が5パーセントから8パーセントに引き上げられたことをどう思っているだろうか。消費税の影響で経済的に負担が大きくなり、商品の購入をためらうようになった人が多くいるだろう。一方で、国の大問題である少子高齢化のためにも役立ち、きっと自分自身に返ってくるだろうと信じて、納得している人もいる。

僕は、自分自身に返ってくるだろうと信じて、納得している側である。だからこれから更に、8パーセントから10パーセントに引き上げられることもおかしくないと思っている。こう考えるようになった理由は、北歐の税金制度や国民の思いを知ったからである。

以前、フィンランドの人々の生活について紹介した本を読んだことがある。その中に、教育制度について紹介していたコーナーがあった。なんとフィンランドの税率は23パーセントで、日本の約3倍である。その代わりに、学費や給食費は全て無料で、子供たち一人一人の学力に大きな差はないそうだ。そのため、国内での貧富の差はほとんどなく、誰もが豊かで安全な生活が送れているのだ。また、女性も意欲的に働くことができる社会も調っているそうだ。男性も女性も、平等に勤務時間や育児に必要な時間を確保することができる。これらも、全て税金のおかげだ。

これに対して日本は、女性が気持ちよく働けるように努めているが、男性は勤務に集中して、女性は家事や育児に集中するという考え方が根強く残っている。

フィンランド以外にも、スウェーデンやノルウェー、デンマークなどの北歐では、税率が25パーセントと非常に高くなっている。しかし、これらの国でも環境保全や医療福祉の充実のために、税金が上手に使われて、国民に返されている。

このように、北歐では高い税率でありながらも、国民が自分たちの豊かな生活のために使われるのだと信じて、正しく払っている。そして暮らしやすい国づくりを願っている。

これから日本が、税率を20パーセント以上へ一気に引き上げることは、不可能だと思う。それに、政治家の汚職問題も多発しているため、税金は必ず自分が生活する上で役に立っていくだろうという考え方に、全員が転換すること

も難しいはずだ。しかし、徐々に税率を引き上げることは、国民全員が安らぎのある、安全で豊かな日本で暮らしていくことにつながる。そして、性別や職業などによる差別や偏見をなくし、平等な生活が送れるようになる。100パーセント実現するとは限らないが、信じて正しく払うことは無駄ではないと思う。

北欧の税金制度や国民の思いが、日本そして世界の国々へ広がって欲しいと願っている。誰もが笑顔で生活できる社会を作るために。